

結束力を高め，個が生きる修学旅行のあり方

～ 絆を深める体験活動を取り入れた自分発見の旅～

茨城県水戸市立内原中学校 教諭（学年主任）鈴木 由香子
教諭 大高 裕巳，川村 美佳
岡村 直之，芳賀 洋介
西連寺美穂
講師 正路 健太

．はじめに

．テーマ設定の理由

．修学旅行までの取り組み

1 第1学年

（1）校外学習

（2）3年生を送る会

2 第2学年

（1）船中泊を伴う自然教室

（2）立志式

．修学旅行の取り組み・実践

1 ねらい

2 期 日

3 宿泊地

4 日程及びコース概略

5 実践から

（1）根本中堂での演舞

（2）坐禅・奉仕活動

（3）班別・体験活動

（4）旅行後のまとめ

．成果と課題

・はじめに

本校は茨城県水戸市の西部に位置し、昭和の初期は、満蒙開拓団の基地が置かれた純農村地帯であった。しかし、近年は2005年2月の水戸市との合併に伴い、内原駅を中心に周辺の土地開発が進み、住宅地や大型商業施設が立ち並び、古くからの町並みや自然環境が大きく変貌しつつある。

現在の生徒数は399名（1年生138名，2年生121名，3年生126名，分教室14名），学級数は15クラス（普通学級11，特別支援学級4）の中規模校である。生徒たちは素直で明るく，学習や部活動に積極的に取り組んでいる。

また，旧内原時代から，「地域で唯一の中学校（三小一中）」としての地域からの期待が大きく，様々な形で地域の人たちとの触れ合いを大切にした活動を行っている。

特に，本校の特色ある教育活動の一つである，3年生の選択学習の時間を利用して2001年から実施している「地域協働学校」の取組みは全国的にも珍しく，「学校教育（音楽，体育，美術，技術・家庭）」と「社会教育（公民館の自主グループのサークル活動）」を融合させ，中学生と地域の人たちが同級生として一緒に学ぶユニークな取組みとして「第18回全国生涯学習フェスティバル・まなびピアいばらき2006・体験学習まると学校公開」の中で取り上げられ話題となっている。

・テーマ設定の理由

本校の教育目標は，「豊かな心を持ち，知性に富み，心身ともにたくましい生徒の育成」である。この目標の達成に向けて，本校では2007年から，「人間力を高める教育活動の追求～確かな学力，豊かな心，自分を生かす力の育成を通して～」という研究テーマを掲げ，「豊かな心育成プロジェクト」「学力向上プロジェクト」「自分を生かす力育成プロジェクト」の3つのプロジェクトチームによる研究を進めている。

「豊かな心育成プロジェクト」では，「地域協働学校」をはじめとする，「地域に開かれた学校」づくりを推し進める中で，内原中学校の生徒たちに身に付けさせたい力として，人とのかかわる力（人間関係調整力）を高めることが課題となっていた。

そこで，3年間の中学校生活における学校行事を意図的・計画的に実施し，個を生かし絆を深める感動体験を味わわせることを積み重ねることで，学級・学年の団結力を高め，あたたかい人間関係をつくれる生徒（認め合い，高め合う人間関係思いやりと感謝の気持ちが表現できる人間関係）を育てたいと考えた。



・修学旅行までの取り組み

1 第1学年

(1) 校外学習

ねらい

- ア 入学したばかりの時期，集団生活を通して，学年・学級の団結力を高めると共に，生徒相互・生徒と教師が心の交流を図り，互いの信頼関係を深める。
- イ 学年・学級におけるリーダーの指導力を高め，学級成員一人一人の自主性や責任感を育てて，自治的な学年集団・学級集団づくりに役立てる。
- ウ 徒歩で往復することで，体力づくりをめざし，また校外活動を通して，公的な場での正しいマナーを守る態度を養う。
- エ 総合的な学習の時間（1年のテーマ「ふるさとを知ろう」）の一部として位置づけ，徒歩で妻里地区を通りながら，各自の課題解決のための情報収集に意欲的に取り組むことができる。

期 日 平成18年5月17日（水）小雨決行 雨天順延（予備日18日）

実施場所 水戸市少年自然の家 水戸市全隈町80-1

交通手段 徒 歩

費 用 1,000円
（施設使用料，昼食費，飲み物代，洗剤代，集合写真，しおり等）

日 程		徒歩	徒歩
学校出発	くれふしの里古墳公園	水戸市少年自然の家	入所式
8:30	11:00		
昼食作り・食事・片づけ	レクリエーション	退所式	
13:00		14:00	
少年自然の家発	学校着・解散		
14:10	16:00		

成果と課題 < 資料 >

- 総合的な学習の時間のテーマである「ふるさとを知ろう」を各クラスの創意工夫にまかせ実施した。新しい仲間（3つの小学校から入学）と協力して行う初めての行事として，各クラスごとにテーマとコースを決め，調査をしながら少年自然の家を目指した。地域の方への取材やインタビューの仕方など情報収集の方法を学ぶことができた。
- 「学級の団結」を第一のねらいとし，学校出発から学級別コースで実施した。各クラスの妻里小出身者が中心となって計画をし，コース係，インタビュー係，記録係など生徒一人一人が活動できる場ができた。
- 昼食は，少年自然の家でカレー作りをし，学級対抗の歌合戦を行った。それぞれ各学級とも得意分野を生かした協力体制で活動ができていた。
- 往復約20キロの行程で徒歩で行った。生徒たちは体力に不安がある仲間を気遣ったり，かばい合ったりしながら，全員が完歩することができた。
- 入学して1か月半であり，行事として学級成員の相互交流や楽しさを中心とする充実は得られたが，小学校時のリーダーに依存する傾向にあり，学年「みんな」という意識を育てるまでには至らなかった。学級委員だけでなく今後いろいろな場面での学年リーダーの育成の必要性を感じた。



平成18年11月21日，1学期の校外学習での反省をもとに，総合的学習の時間に「もっとみんなの住んでいる地域を知ろう」をテーマに掲げ，内原地区を知る，友人のよさを知る，学年リーダーの育成をねらいとして，自転車による鯉淵・内原地区へ校外学習を行った。

取材や話し合い活動を通して，自分の考えを深める力をつけ，友達や家族，地域の方々とあたたかい関わりをもつと共に人とのふれあうよさを実感させたいと考えた。

- 中学校生活にも少しずつ慣れたこともあり，1学期の時よりも，後期の学級委員を中心に，鯉淵・内原小出身者も加わり生徒たちで計画を立て，行動することができた。
- 学級のまとまりとともに，各部ごとの連帯意識も育ってきた。
- 後期の生徒会役員に何人が立候補したが，1名しか生徒会に送れなかったので，後期の学年委員会（学級委員）の活動をさらに活性化したいと考えた。
- 成果のひとつは，学年委員会で「いじめについて考えようキャンペーン」ができたことである。この頃には友人関係も広がってきたが，生徒たちの中では，嫌な「あだ名」で呼ばれているという悩みがあがってきていた。さっそく各学級でアンケートをとり，話し合いをし，学年委員会でも話し合い，1週間「人が嫌がるあだ名を使わない」キャンペーンを行い，学年集会をもった。
生徒たちは，悪気でなく呼んでいたりと，その呼び方が人によって好意的にとられる時とそうでない時があることを知り，人間関係を見直すことにもつながった。
- まだまだ陰では，人間関係のいざこざはなくならなかったが，学年の生徒全員で取り組むことができ，学年委員の生徒たちには一つの自信となった。

(2) 3年生を送る会

ねらい

ア 卒業生一人一人に卒業の喜びを味わわせ、卒業後生活に対する期待と希望をもたせる。

イ 在校生には、後輩として卒業生の卒業を喜び、祝うとともに伝統を受け継いで、さらに発展向上しようとする態度を育てる。

期 日 平成19年3月9日(金)

内 容

何といっても、この学年の方向性を位置づけた取り組みであった。

水戸市では中学2年で「船中泊を伴う自然教室」を実施している。そのため3学期の総合的な学習の時間は「ふるさと茨城を知ろう」、社会科では「北海道を知ろう」、さらに音楽では「郷土の音楽～民謡～」の学習を行った。音楽では「ソーラン節」で表現方法の1つとして、踊りながら歌うという形を学習した。

3年生を送る会で自分たちの感謝の思いを「学年ひとつ」という形で表現しようという提案が学年委員会で作られ、学級で話し合いが行われた。

3つの小学校のうち2校で「ソーラン節」を踊った経験があり、卒業生に自分たちが気持ちをひとつにして踊ることで、パワーを届けよう、そして2年生に向けてさらに良い学年作りをしていこうということで、踊りと卒業生へのメッセージをすることにまとまった。

さっそく学年委員会が中心となって、練習計画をたてた。各クラスごとにビデオをもとに練習が始まった。鯉淵小出身者が前面でリーダーシップをとり、全員が踊れるようになるまで何回も練習を行った。学年委員は、当日の隊形や服装の着こなしなど学年の約束事を話し合い、学年の生徒に伝えて当日を迎えた。

3年生を送る会でこのような形での送る会は、内原中で初めての試みであった。生徒たちの絆や表現力に圧倒され、学年職員はじめその場に参加した生徒や教職員に深い感動を与えた。 < 資料 >

生徒たちの感想は、一人一人が精一杯やることのできた満足感と全員で踊れたという達成感がほとんどであった。

また、先生方や先輩たちから称賛の言葉をかけられてうれしそうであった。

成 果

- 生徒たちが、「学年ひとつ」という形で表現しようという提案が生徒たちの中から出てきた。「自分の得意なことで表現しよう」「表現力をつけよう」「自分をアピールしよう」という教師側の投げかけが少しずつ生かされてきた。
- 練習では、リーダーとなる生徒が周りを引っ張るばかりでなく、普段おとなしく、目立たない生徒が思いっきり踊ることで「自分を出す」ことができてきた。

この取り組みは次年度の立志の年に向けてスタートと位置づけていたが、さらに、学年職員間で学年ひとつになったの踊りを生かす場はないものかと検討した。そこで、船中泊期間中に札幌で開かれているYOSAKOIソーラン祭りに参加できないかと組織委員会に連絡をとったところ、すでに申し込み期限は過ぎていたが、前年度から道外の小中学生のチームに開かれていた「感動枠出場」での参加ができることがわかった。

蛇足ながら、平成19年度は本校の2年生が、平成20年度は、同市内の水戸第二中学校の2年生がこの「感動枠」でYOSAKOIソーラン祭りに参加した。水戸市内でもいくつかの学校がこの踊りを取り入れているが、本場の祭りに参加したのは本校が最初である。

< 資料 3年生を送る会 > →



2 第2学年

(1) 船中泊を伴う自然教室

ねらい

ア 船中や北海道での宿泊を伴う集団生活を通して、ふるさとや自分自身を見つめなおすことができる。

イ 北海道の雄大な自然や歴史・文化を実体験するなかで、人々とのふれあいを通して互いに認め合い高めあう集団作りを行うことにより、豊かな人間関係を培う。

ウ 年間を通して行う立志関連学習の第一歩として、自らの生き方を考え、課題解決や探求活動に自主的、主体的に取り組むことができる。

期 日 平成19年6月8日(金)～12日(火) 4泊5日

スローガン 「北海道の感動を受けとめろ! ～キズナ深める船中泊～」

実施場所 北海道苫小牧市、洞爺湖町、札幌市

宿泊場所 北海道立洞爺少年自然の家(9日) 北海道虻田郡洞爺湖町岩屋15
定山溪温泉グランドホテル(10日) 北海道札幌市定山溪温泉東4丁目

日 程	
第1日目 6月8日(金)	
学校発	大洗港・乗船
15:40	16:40～
	大洗港発
	18:30 (船中泊)
第2日目 6月9日(土)	
苫小牧港着	学級別活動
13:30	15:15
	洞爺少年自然の家(泊)
	16:15 (ナイトハイキング)
第3日目 6月10日(日)	
洞爺少年自然の家	YOSAKOI ソーラン祭り体験
8:30	10:00
	13:00
札幌市内班別活動	定山溪グランドホテル瑞苑(泊)
13:30	17:30
第4日目 6月11日(月)	
瑞苑発	ラフティング体験・サイクリング体験
8:30	9:30
	11:00
西山火口散策	苫小牧港・乗船
15:00	17:40～
	18:45 (船中泊)
第5日目 6月12日(火)	
大洗港着	各地区解散
14:30	16:00頃

学級別活動

- 1組 有珠山ロープウェー、パークゴルフ
- 2組 札幌大倉山シャンツェ
- 3組 洞爺湖遊覧船、中島散策
- 4組 牧場体験 東室蘭～伊達紋別 J R北海道乗車

事前の活動

ア 水戸藩よさこい連の指導 < 資料 >

- ・ 2年となり、まず、学年集会で新しい学年の先生方に披露することからスタートし、クラスでYOSAKOIソーラン踊りの練習が始まった。しかし生徒たちの取り組みも意識も今ひとつであった。そこで総合的な学習の時間に、水戸藩よさこい連の方たちにボランティアで指導に来ていただいた。

水戸藩よさこい連は、12名という少人数であったが、最初の演舞で生徒たちはその真剣さと迫力に圧倒された。各クラスごとに指導を受ける中で、生徒たちの取り組む姿勢が変わっていった。この活動を通して、演舞の最初と最後には力強い挨拶をすること、常にお客様に見ていただくという気持ちと感謝の気持ちを忘れないこと、笑顔を忘れないこと、ひとつひとつの動きに気持ちや気合いを込めること、行動は素早くすることなどを学ぶことができた。また、水戸藩の方々も当日札幌で行われるYOSAKOIソーラン祭りに参加するということを知り、札幌での再会を約束して最後に全員で踊り、船中泊への思いを新たにすること

とができた。

イ 練習の過程 < 資料 >

- ・ 組織委員会との打合せで当日の行動がわかり、連休明けから準備と練習に入った。まず、船中泊実行委員（＝学年委員）を中心に、鳴子作り、YOSAKOIソーランの振り付けを考えた。内原中らしさを入れるために、前奏に校歌の一部を録音し、間奏部分は「内原音頭」の振り付けを取り入れた。踊りは、大通公園の100mパレード形式を5回と8丁目のステージ形式が1回。水戸藩の方達に聞いたとおり、かなりハードなものであった。どちらも校庭に同じ大きさの線を引いて実際の練習を繰り返した。100m×5回はかなりきついものだったが、ダンスリーダーたちの声かけで、着実に練習が行われた。また部活動等に迷惑をかけないように、昼休みを使ったり、放課後短時間で行うなど周囲への配慮も心かけた。
- ・ 大会のメインステージでは、前列は学年委員の配置が決まっていたが、中心位置に来る場所を誰が踊るか希望者を募った。予定人数よりも多くの希望者がありオーディションを行った。その希望者の中には、運動能力が高くない生徒や、普段クラスではほとんど自己主張しないような生徒も含まれていた。練習を重ねるたびに、思いっきり自分を解放し、楽しく踊る生徒たちの姿が見られることに学年職員も驚かされた。結局、学級担任全員で選考したが、落ちた生徒が、悔し涙を流したことは印象的だった。
- ・ いよいよ出発して船に乗り、翌日朝には、出発前に取材を受けたことが新聞に載ったというメールが届き全員さらに意欲を新たに。北海道が近づくと、船のテレビではYOSAKOIソーラン祭りの中継をやっていて、生徒たちは興奮状態、職員も気を引き締めた。洞爺少年自然の家には、学級別行動のあとの到着、「ナイトハイク」まで一切練習の機会はなかった。終了時間をかなりオーバーして、早く就寝させなくてはという時に、生徒たちから「踊らなきゃ」という声があがった。そこで警備員の方をお願いして、1日の活動で疲れているはずなのだが夜9時半過ぎから『内中ソーランナイト』となった。



< 資料
水戸藩よさこい連のご指導を受ける >



< 資料

茨城新聞の記事

ネイパル洞爺での夜練習 >



当日の様子

・ 学年便り (平成19年7月9日) から < 資料 >

10日、洞爺湖の朝は本当に良い天気です、すがすがしい空気を胸一杯に吸い込んで、朝のつどいを行いました。超スピードで朝食・部屋の点検を終え出発しました。途中中山峠で全クラス揃い(3,4組のバスは爆走?暴走?)各クラス色のハチマキをキリリと締めて札幌市内に入りました。大通公園は予想以上に人があふれ、出場チームのきらびやかさに唖然としながらも、黒Tシャツの『内中魂』はなかなかよいものでした。

～余裕を持って到着したのに、ここで音源のトラブル!あわや踊れないという事態にまでなりかけました～

しかし、添乗員さん、YOSAKOIソーラン祭りのスタッフの方達のおかげで、予定より16分遅れで、大通公園北コースの踊りが始まりました。

5丁目、6丁目、7丁目と踊るたびに、緊張感がほぐれ声が出て、自然と笑顔で踊りながら祭りを楽しみました。栈敷席からの応援の声や、水戸藩よさこい連の方達の励ましの拍手がとてもうれしく感じました。

給水の後の9丁目が一番踊りが揃っていてきれいだったかと思います。10丁目を踊りきって、ちょっとほっとしたら涙が出てきました。生徒たちは本当に全力で踊りました。スタートのトラブルにもめげず、自信をもって踊りきりました。拍手!!

そしていよいよメインステージ!時間が思っていたよりも少しあったので十分休めました。

～ただこの時、膝の故障を抱えていた生徒たちの痛みの訴えが続出!学年職員も引率職員も全員が生徒と踊るために、何ももたずに参加。添乗員さんやその友人のボランティアの方達に、助けていただいてクールダウンできました。もう一つの話、1人の女生徒が膝が痛くて踊りたくないと言きながら訴えてきました。踊らなくても全員でステージにあがろうとやさしく説得してくださったのは、教頭先生でした。～

我々の前は、3連覇している『新琴似 天舞龍神』“究極の和”が特徴の横綱チームです。会場は満員!後ろから見ていても本当に迫力のある素晴らしいものでした。この時間帯に設定してくださった組織委員会にも感謝の一言でした。

『内中魂』は実行委員長の曾川さんの気合いのこもったかけ声でステージに登場。札幌の青い空の下で4分半、127人+9人の渾身の踊りだったと思います。

・ 保護者の応援

P.T.A学年委員長さんはじめ学年委員の方々のご理解、そして保護者の方の応援もありがたいものでした。Tシャツやハチマキ、鳴子などをそろえることができたのもこの学年ならではのことでした。

また、当日の撮影は、本校のアルバム担当の写真屋さんが札幌まで来てくださり、何人かの保護者もメインステージの客席から応援してくださいました。

・ たくさんの方々の支援

YOSAKOIソーラン祭に参加するにあたって、本当にたくさんの方々々に支援をいただいた。組織委員会やボランティアスタッフの方々には、感動枠出場への様々な配慮をしていただいた。また当日のトラブルにも親切に対応していただいた。

添乗員さんやその友人の方々には、踊っているときの給水補助や生徒看護を、宿泊施設の方には食事・就寝時間への配慮をいただいた。

北海道県人会のかたには、激励会と生徒たちへの差し入れ、本校が統合される前の双葉中卒業生という北海道在住の方には、写真を撮って学校へ送っていただいた。

また、船中泊前には茨城新聞社の取材を受け、北海道へ出発した後掲載されたが、見ず知らずの方からも学校へ励ましの電話をいただいたそうである。

記念撮影の時の写真をハガキで各ご家庭に送りましたが、誰もいい笑顔だったのがおわかりいただけたかと思います。その他添乗員さんのお友達でチームにボランティアでついでくださった方たちには給水でお世話になりました。

さらにおまけが...S.T.Vは1日中放映しているのですが、内中の後ろ姿が映っている場面を添乗員さんのお友達が録画してくださって、定山溪のホテルの夕食会場で見ることができました。(感謝です!)

その後は、楽しみにしていた班別活動。短い時間でしたが、いろいろなところを見たり聞いたり味わったり...充実したものになったようです。

集合場所の札幌ファクトリーでは，北海道茨城県人会の方たちが待っていてくださいました。会長さんは90歳を超えられるとかで，副会長さんはじめ事務局の方たちが内原中の応援のためにかけつけてくださいました。一人の方は石岡出身だそうで内原を知っていると話しておられました。北海道のすばらしさを話し，全員に記念のお菓子をくださいました。北海道で茨城やふるさとのことを考えられるよい機会になったと思います。

学校へ帰ってきたら，北海道在住，昭和25年双葉中卒業の大関勝男さん（内原中の大先輩です）からの写真が届いていました。祭りに来ていて撮ってくださったそうです。本当にいろいろな方からの応援・励ましがありがたいことでした。



< ネイパル洞爺の朝のつどい >



< 大通公園北コースの踊り >



< 資料 8丁目 メインステージ >

○ 4泊5日の諸活動の計画・実践を通して、自主性・自立性・責任感など、社会の一員として必要な資質や態度を身につけさせたいと考えた。実行委員会を中心に、班別活動の話し合いでは、人間関係づくりや個の考え・願いを集団の中で生かせるよう支援した。

- 第16回「YOSAKOI ソーラン祭り」に感動体験枠で参加出場することができた。組織委員会の方をはじめ、ボランティアスタッフ、添乗員、バスの乗務員、宿泊施設の関係者、北海道茨城県人会、北海道在住で旧双葉中の卒業生の方、水戸藩よさこい連他、多くの北海道の人々のおかげで無事終えることができた。
- その方たちとの出会いや支援があり支えていただいた方たちへの感謝の気持ちが大きく育った。

- 航海の体験や、ラフティング、ナイトハイキング、西山火口見学など北海道の雄大な自然の中での貴重な体験を通して自然の大切さや壮大さを感じることができた。

- 各学級別活動をとおして、それぞれの体験を楽しみ生徒相互及び教師と生徒とのよりよい人間関係を育てることができた。また牧場体験では動物だけでなく牧場の方との交流などもできた。

「**立志の1年**」のスタートであるという意識をもち、諸活動に取り組むことができた。集団生活を通して、自己の役割を意識し、自信と責任感が育った。

さらにこの結束力を高める手段のひとつとして取り組んできた『YOSAKOIソーラン』をこの船中泊で終わりにするのではなく、立志式までつなげたいと考えた。



平成19年度 「船中泊を伴う自然教室」についてのアンケート

1 「船中泊を伴う自然教室」を実施しての生徒の感想 (127名)

項 目	はい	どちらかといえば はい	どちらとも いえない	どちらかといえば いいえ	いいえ
(1) 船の生活は楽しかった	107	14	5	1	0
(2) 北海道のすばらしさを味わえた。	122	4	1	0	0
(3) 友達や先生とのふれあいを深められた。	113	13	1	0	0
(4) 自分の成長にプラスになった。	108	17	2	0	0
(5) とてもよかったことは、どんなことですか。(主なものを順に3つ)					
船の中では	・ 友人とゆっくり話すことができ、その人のことをもっとよく知ることができ、他の人とも仲良くなれたこと。 ・ 日の出を見たことと、デッキ見学、イルカを見たこと。 ・ 揺れの体験。酔わなかったこと。				
体験活動では	・ 北海道の自然に触れられた。(ラフティング、サイクリング、乗馬、川の中、水の冷たさ) ・ 周りの景色の美しさを楽しめた。 ・ 西山火口のボランティアガイドさんの話やインストラクターとの話				
宿泊施設では					
< ネイパル洞爺 >	・ 友達と協力して生活し、責任をもって行動できた。 ・ 洞爺湖のきれいさとナイトハイク。 ・ 体育館でYOSAKOIを踊ったこと。				
< 定山溪温泉 >	・ 風呂の大きさ、温泉の気持ちよさ。 ・ 朝・夕食のおいしさ。 ・ 笑顔で迎えてもらったこと、よく眠れたこと。				
札幌の見学では	・ 名所を見学でき、土地の人と話ができたこと。 ・ 時間を守って自分たちだけで行動できたこと。 ・ 札幌の街を味わった。(街並みのすごさ、おみやげが豊富、ラーメン)				
その他	・ YOSAKOIソーラン祭に参加できたこと、大勢のお客さんの前で踊ったことの感動				

2 「船中泊を伴う自然教室」を実施しての保護者の感想 (119名)

船の生活は楽しかったようである。	101	14	4	0	0
北海道のすばらしさを味わえたようである。	95	20	3	1	0
○ 今回の「YOSAKOIソーラン」は、一生涯忘れることのない貴重な体験になったことと思います。子どもたちにこのような機会を与えていただき、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。(同様な感想 多数) ○ 茨城県人会から記念品(お菓子)を頂いたと聞いて大変感謝したい、と同時に郷土愛(ふるさとを思う気持ち)について考えさせられました。周りの方々に支えられ、助けられ、生きていることを再確認しました。 ○ おみやげを買ってきてくれたり、ハガキを出してくれたり、家族と離れた生活により、家族を思う時間がもてたかなと思います。 ○ 船中泊を通して自信がついたと思います。					

(2) 立志式

ねらい

- ア 14歳という節目の年を迎えた生徒一人一人に、今までの自分の生き方を振り返らせ、将来に向かっての志を立てて、その目標達成に向けて日々努力することの大切さを確認する。
- イ 「立志の1年」の締めくくりとして、自分や自分を取りまく集団（学校・家庭・地域社会）について見つめ直し、新たに自分の生き方を考える機会とする。
- ウ 立志式式典や立志式関連の諸活動を通して、仲間と一緒にものを作り上げたり、自分の足跡を残したりすることの大切さを知るとともに、支えてくれた人たちに感謝する気持ちをもち、公的な場面での正しい礼儀作法を養う。

期 日 平成20年2月22日（金）

スローガン 「自分の花を咲かせよう ～小さな花から大きな花へ～」

実施場所 内原中体育館

内 容

14歳という節目の年に、今までの自分の生き方を振り返らせ、将来に向かって志を立てることを目標とし、「立志の1年」の集大成となる立志式を実施する。

実行委員会（後期学年委員がそれぞれのチーフとなり、前期学年委員がサポートする体制）を中心に、全員が8つの担当に分かれ、2月の立志式に向けて活動を行った。

- ア 学年歌づくりと合唱 学級ごとに言葉を選び担当でひとつの詞にまとめた。さらに作曲担当の生徒が、歌詞に合わせて作曲をした。
- イ 記念品づくり 12月に笠間へ校外学習を行い全員が、今心にある『文字、言葉』を入れて作成した。
- ウ 学年旗づくり 自分の名前を自分色で表現する。『内中旋風』を巻き起こせの願いを込めて学年で『風』の文字を選んだ。
- エ クラスの主張
＜ 資料 ＞ 立志式当日、歌に込めたクラス、一人一人の決意表明をしたクラス、劇で表現したクラス、替え歌と決意を表す文字を発表したクラスなど「わたしたちの思い」として行った。
- オ 映像で振り返る1年 入学してからを振り返り、ナレーション原稿や映像の作成を行った。
- カ YOSAKOI & 南中ソーラン内原中バージョン 内原小で踊っていた『南中ソーラン』を内原中バージョンにまで高めようと、実行委員の他に希望者を募り、踊りの会得と練習に取り組んだ。
- キ 感謝の手紙 今までの年月を振り返り、支えてくれた親に感謝の手紙を書いた。
- ク 式典 他の係の連携を中心に話し合い、当日の司会進行を務めた。



＜ 資料 クラスの主張 ＞



成果 < 資料 文集うちはら から >

アロケラム 歌

- 1.開会の言葉
- 2.校長先生のお話
- 3.実行委員あいさつ
- 4.合唱隊「風を吹かせよう」
- 5.校歌「北の道」
- 6.校歌「北の道」
- 7.校歌「北の道」
- 8.校歌「北の道」
- 9.校歌「北の道」
- 10.校歌「北の道」
- 11.校歌「北の道」
- 12.校歌「北の道」
- 13.校歌「北の道」
- 14.校歌「北の道」
- 15.校歌「北の道」
- 16.校歌「北の道」
- 17.校歌「北の道」
- 18.校歌「北の道」
- 19.校歌「北の道」
- 20.校歌「北の道」
- 21.校歌「北の道」
- 22.校歌「北の道」
- 23.校歌「北の道」
- 24.校歌「北の道」
- 25.校歌「北の道」
- 26.校歌「北の道」
- 27.校歌「北の道」
- 28.校歌「北の道」
- 29.校歌「北の道」
- 30.校歌「北の道」
- 31.校歌「北の道」
- 32.校歌「北の道」
- 33.校歌「北の道」
- 34.校歌「北の道」
- 35.校歌「北の道」
- 36.校歌「北の道」
- 37.校歌「北の道」
- 38.校歌「北の道」
- 39.校歌「北の道」
- 40.校歌「北の道」
- 41.校歌「北の道」
- 42.校歌「北の道」
- 43.校歌「北の道」
- 44.校歌「北の道」
- 45.校歌「北の道」
- 46.校歌「北の道」
- 47.校歌「北の道」
- 48.校歌「北の道」
- 49.校歌「北の道」
- 50.校歌「北の道」
- 51.校歌「北の道」
- 52.校歌「北の道」
- 53.校歌「北の道」
- 54.校歌「北の道」
- 55.校歌「北の道」
- 56.校歌「北の道」
- 57.校歌「北の道」
- 58.校歌「北の道」
- 59.校歌「北の道」
- 60.校歌「北の道」
- 61.校歌「北の道」
- 62.校歌「北の道」
- 63.校歌「北の道」
- 64.校歌「北の道」
- 65.校歌「北の道」
- 66.校歌「北の道」
- 67.校歌「北の道」
- 68.校歌「北の道」
- 69.校歌「北の道」
- 70.校歌「北の道」
- 71.校歌「北の道」
- 72.校歌「北の道」
- 73.校歌「北の道」
- 74.校歌「北の道」
- 75.校歌「北の道」
- 76.校歌「北の道」
- 77.校歌「北の道」
- 78.校歌「北の道」
- 79.校歌「北の道」
- 80.校歌「北の道」
- 81.校歌「北の道」
- 82.校歌「北の道」
- 83.校歌「北の道」
- 84.校歌「北の道」
- 85.校歌「北の道」
- 86.校歌「北の道」
- 87.校歌「北の道」
- 88.校歌「北の道」
- 89.校歌「北の道」
- 90.校歌「北の道」
- 91.校歌「北の道」
- 92.校歌「北の道」
- 93.校歌「北の道」
- 94.校歌「北の道」
- 95.校歌「北の道」
- 96.校歌「北の道」
- 97.校歌「北の道」
- 98.校歌「北の道」
- 99.校歌「北の道」
- 100.校歌「北の道」

平成19年度 立志式

2月22日(金) 13:30～

スローガン 自分の花を咲かせよう
——小さな花から大きな花へ——





絆が深まったソーラン節

ソーラン節をはじめ踊ったのは、一年生の時の三年生を送る会でした。二年生になり船中泊で北海道のステーションで踊ったとき、感動する事ができました。ですが、まともにはありませんでした。現在では、きちんとまとも一人一人の意識があって、とてもよくなりました。踊りとしては、完全ではありませんが、実行委員として最後までやりとげ感動を味わい、内中旋風を吹かせていきたいです。



「希望の花を作詞して」

学年歌の制作にあたって、みんなから募集した歌をもとに「どんな思いを歌に込めたいのか。」を作詞係四人で考えながら、みんなの心に残る歌詞になるように、何日もかけてつくりました。

一番は「今の私たち」、二番目は「旅立ち」のイメージで、身近にあるもの・感じるもの・伝えたい事などを歌に込めました。作成するのは大変でしたが、一生心に残る歌になればいいと思います。

希望の花

学年歌づくりの担当になった時は、今まで曲なんか作ったことないのに、大丈夫かなと思いました。いざ作りはじめてみると、やはりすごく大変だったし、時間もかかりました。そんな中、他の係の人とも協力してできた「希望の花」は、とても思い出深い曲です。この歌をみんながもっと好きになって、いつまでも心の中に残っていてくれたら、うれしいです。学年歌作りに関わってよかったと思います。

映像係をふり返る

立志式での「映像でふり返る立志の一年」ということで、ナレーション原稿の作成、映像の撮影、時間配分などといった活動をしました。みんながこの映像を見て、一年をふり返ってもらって、「この一年、本当に楽しかったな」と思ってもらえるように作成しました。

立志式という大きな行事で、一生懸命に活動ができたので、とてもよい経験になりました。

式典係をふり返って

式典係の活動は主にプログラム作成や司会進行です。今回の立志式は例年とは違いソーランや記念品作りなど様々な催し物がありました。その中で式典係は全体の進行状況の確認などを行ってきました。式典係で一番大変だったのは他の係との連携です。他の係とあれがよい、これがいいと話し合い本番にのぞみました。

一生懸命やってきたことが本番で実を結んでまた一歩成長したと思います。

学年歌「希望の花」

し、みんなと出逢い、今年まで生きてきた思い出を思い出し、この瞬間に目を凝らして見たい。たくさんの夢がある。そして、夢を叶えるために努力をしよう。未来は、自分たちの手で描かれます。希望の花、咲かせよう。未来は、自分たちの手で描かれます。希望の花、咲かせよう。

作詞：2年生全員
作曲：2年生全員



< 資料 第2学年代表 修了式の発表 >

1年を振り返って

2学年代表 学年委員長

この1年間を振り返ると、たくさんの行事があり全てが思い出に残っています。その中でも心に残った行事が2つあり、その行事は一生の思い出になるものです。その2つとは船中泊と立志式です。

1つめの船中泊では、「北海道の感動を受け止める、キズナ深める船中泊」というスローガンのもと、フェリーで北海道へ行ってさまざまな活動を行うことができました。

1組は有珠山に行き、2組は大倉山のジャンプ台に行き、3組は洞爺湖の中島に行き、4組は室蘭に行き牧場体験をしました。それらは全て北海道でしか見られないもの、体験ばかりでした。そしてそれ以上に一番心に残ったものは、YOSAKOIソーランでした。2年生全員で踊ったYOSAKOIソーランは、繰り返し練習してきた中で一番の演舞だったと思います。そして大きな感動も体験することができました。

そしてそれは、学級の団結力だけではなく、「学年ひとつ」という気持ちで活動したことが大きな力をつけたのだと思います。これは2年生だけで終わるのではなく、これから最高学年に向けてさらに磨き、高めて行きたいと考えています。

2つめの立志式では、実行委員の人たちを中心に一人一人が積極的に取り組むことができたと思います。自分は「立志」ということについてしっかりと考えられ、今まで関わってくれた人たちに感謝の気持ちを伝えることができました。そして自分の将来についても考えられた行事になりました。

この一年間多くのことを学び、体験して成長することができました。学んだことや体験したことを今年の学年目標「心輝情笑」を超えるすばらしい学年づくりに生かしていきたいと思います。

・修学旅行の取り組み・実践

1 ねらい

- (1) 日本の伝統である古都を訪ねて、先人の文化遺産である建造物、美術品、伝統的産業や自然等を見聞することにより、既習の学習の整理と確認をし、さらなる意欲向上の機会とする。
- (2) 集団行動をとおして、望ましい社会人としての学習体験をさせるとともに、生徒相互、生徒と教師との一層の理解とふれあいを図り、協力・責任などの態度を高め、学習先での礼儀や健康・安全に留意する態度を養う。
- (3) 各自の課題解決のために、学習に対して自主的・意欲的に取り組むことができるようにする。

2 期 日

平成20年5月17日(土)～5月19日(月)

スローガン「そうだ 古都へ行こう」

～学べ日本の美 数々の歴史を～

3 宿泊地

「比叡山延暦寺会館」 〒520-0116 滋賀県大津市坂本本町4-2-20

「ハートンホテル京都」 〒604-0836 京都府京都市中京区東洞院上ル

4 日程及びコース概略

○ 第1日目

内原駅発 上野駅着 東京駅発 京都駅着 東寺着.....

7:43 9:40 10:47 13:08 13:45

延暦寺着(大講堂見学, 演舞奉納, 坐禅指導, 特別法話) 「延暦寺会館」着

15:30 16:45 19:30 20:30

○ 第2日目

坐禅・奉仕活動「延暦寺会館」発 班別体験学習活動(タクシー利用)...

5:30 8:30

「ハートンホテル」着... 梨木神社(体験学習「能」)... 「ハートンホテル」着

16:30 19:30 21:30

○ 第3日目

「ハートンホテル」発 東大寺大仏殿...学級別活動 近鉄奈良駅発 ...

8:15 9:30 12:12

京都駅発..... 東京駅着 東京駅発.....友部SIC・水戸IC...内原中着

13:42 16:03 16:20 コース別解散 18:40

5 実践から

(1) 根本中堂での演舞

延暦寺根本中堂前庭での演舞奉納は、延暦寺の担当の方のご厚意で予定時刻よりも早く行うことになった。土曜日で観光客や参詣の方も多く、昨年の北海道札幌市の大通公園とはまた違った緊張感で気が引き締まった。3組の大津さんの前口上のあと、学年歌を歌った。静まりかえった木立の中に生徒たちの歌声が吸い込まれていくように響いた。その後、実行委員長の曾川さんの号令のもと南中ソーランとYOSAKOIソーランの演舞が始まった。途中一度音楽が途切れるハプニングがあったものの生徒たちは一部ハッとしたけれど踊りきった。「動揺せず、仲間を信じて踊れるのはすごい」と職員全員が感じた。踊った後の一人一人の笑顔は素晴らしく、充実感のある感動体験ができたことを物語っていた。

宿舎に80歳の老婦人がいらっしゃったが、我々の演舞があると聞いて根本中堂にわざわざ足を運んでくださった。そして終わるなり、「この年まで生きていてよかった、よいものを見せていただいた、感動しました」と声をかけてくださった。

生徒たちの感想

- ・自分たちの学年は感動を求める学年である、こんな学年が大好きだ。延暦寺で踊れてとってもうれしかった。
- ・みんなで踊り終わったとき、学年全体の絆が深まったと思った。

- ・あまり練習していない中ではあったが、本番で声を出したり、力を込めて踊ることができてとてもよかった。また、いい思い出をつくることができた。
- ・今までの練習の成果を発揮した。去年の感動がまたよみがえった。
- ・特に印象に残ったものが2つある。1つめは、根本中堂で踊った南中&ヨサコイソーランの演舞だ。お客さんもたくさん見えて、数ある歴史の中、根本中堂で踊れたことは本当に幸せなことだった。一生で一度の忘れられない思い出となった。
- ・1日目の1番の思い出では、やっぱり延暦寺でのYOSAKOIと夜の法話です。今年は中学校最後の1年です。その最後に延暦寺でYOSAKOIが踊れてとってもうれしかったです。夜の法話では、お坊さんの話がとても感動する話で、涙が出てきてしまいました。

(2) 坐禅・奉仕活動

延暦寺での体験活動（法話、食事作法、坐禅、奉仕活動）を行った。夜、作法や心構えを教えていただき、翌早朝の坐禅に備えた。

その他、食事の作法指導と無言での食事、夜の根本中堂での特別法話などはすべて意義のあるもので、大変思い出に残るものであった。

朝5時起床、無言行動ということで、教師の指示なしで5時半5分前には全員玄関前に集合整列完了！根本中堂での坐禅は前日教えていただいた座り方と手の印を結び、半眼で呼吸を整え、心でゆっくり数を数え始めた。聞こえるのは鳥の声だけ...時間がとても短く感じられた。その後は奉仕活動の草むしり、両手で根っこからとる作業をよくできた。事前指導が生かされ、「部屋の外では無言で行動する」「時間を守る...5分前集合」などがよく守れた。

生徒たちの感想

- ・延暦寺で法話を聞いたこと - なぜ、自分が生きてこられたかということを考えさせられた瞬間だったと思う。だから、これからも感謝の気持ちをもちながら生活していきたいと思う。
- ・修学旅行は修行旅行でもあった。自分の生活の豊かさを改めて実感し、いろいろなものに感謝していきたい。
- ・法話の中で、自分の実体験を通して『なぜ修行をするのか』ということ『全ての物事には何かきつと理由があるということ』などを教えてもらってとても勉強になった。
- ・坐禅は面倒かなと思っていたけれどやってみるとこんなに心を落ち着かせて周りの音を聴いたりしたのが初めてだったのでとても気持ちがよかったです。
- ・早朝の坐禅も印象的でした。朝、4時半起きというとても眠い中での坐禅はとてもつらく寒かったです。しかし、坐禅の中で無心になり、呼吸を整えるということをやっていると、なぜか自分も夢中になりました。呼吸の数を数えていると、あっという間に時間が過ぎ、107回を過ぎたところで終わりの時間になり、何というかとても不思議な体験でした。
- ・私は農業が大好きなので、“草むしり”をやると聞いたときにはとてもうれしかったです。世界遺産の所で草むしりをやる機会はないと思うので、すごく楽しくできました。
- ・「今ここにいるのも意味がある」という言葉も印象に残りました。今までは普通に笑ったり、泣いたりして過ごしてきただけなのに、それが意味があると言われたら、「もったいない時間を過ごしたな」って思うことがたくさんあって、この法話で自分を見つめ直すことや、考える機会ができてよかったです。

(3) 班別体験学習

2日目は、班別行動の中に体験活動を取り入れた。昨年の職場体験の経験を生かし、班ごとにアポイントをとり、それぞれ「京都でしか体験できないもの」の体験を楽しんできた。個人タクシーの運転手さんの案内にきちんと従い、よく話を聞き、予定通り活動することができた。また、自分たちで予約を取った体験活動を楽しむことができた。

夜は、梨木神社で能の鑑賞をした。梨木神社までを京都御所経由の徒歩とし、京都の町並みを体験させた。梨木神社では丁寧な説明と迫力ある演技を堪能した。

タクシーの運転手さんからは、「みんなとっても素直でええ子ですな」「こんなに話を一生懸命聞いてくれはると、やりがいがありますな」というお褒めの言葉をいただいた。

生徒たちの感想

- ・修学旅行は、どの行事も充実していました。日本の文化や歴史にふれ、楽しむことばかりではなく、自分の心も磨かれました。どの活動も楽しく、最高の修学旅行となりました。
- ・私は修学旅行で命を大切にすることの大切さ、仲間のために働くことの大切さを学びました。人生に1回しかない中学校3年生での修学旅行は、私にとって一生の思い出となりました。
- ・体験活動で行ったロクロでの作陶も心に残っている。ロクロ教室の方が丁寧に教えてくれたので、初めてだったがとてもよい作品ができた。一生の宝物にしたい。その後には、能の鑑賞だ。もちろん初めての能だ。生で見た本物の能はとてもすごい迫力で、これも一生の宝物になるだろうと思った。
- ・班別では、私たちの班は体験で着物を着て金閣寺や白峰神宮を散策しました。着物を着ることができて少しだけ京都の人になれたような感じがしてよかったです。茨城では絶対体験できないことだと思いました。着物...最高でした。

< 資料 修学旅行のしおり >



修学旅行のしおり完成!

大切なこと

修学旅行の準備は進んでいます。明日からが修学旅行の最後の土日となります。まだ持ち物がそろっていない人、髪が長い人など、土日を利用して、準備を済ませておきましょう。健康管理も忘れないように！ケガのないように！

しおりをしっかりと読み込み、生活の心得(しおりの4、5ページ)もきちんと守れるよう心がけるべし!!

持ち物・服装・決まり

修学旅行のしおりの2ページに持ち物・服装と生活の決まりのページがあります。準備をしっかりと進めておきましょう。きまりを守り、お互い楽しい旅行にしましょう。



持ち物・服装・決まり

○内中Tシャツ
○はっぴ
○なるこ
○はちまき
グループごとにまとめて事前に返ります!

●時間厳守。
●服装は決まり通り。
●髪は短くカット。
●タオルを短く切る。
●修学旅行のしおりをよく読む。
●礼儀正しくふるまう。
●あいさつをしっかりと行う。
●ゴミを紙袋に入れて持ち帰る。
●公共物を大切に扱う。
●騒がない。
●無断で他人のものを触らない。
●同級生や教員と仲良く過ごす。
●迷惑をかける行為はしない。
●お金の扱いに気を配る。
●いじめやいじめた行為はしない。
●走らない。(車内・電車内・駅内など)
●壁に書いたり、人に話しかけたりしない。

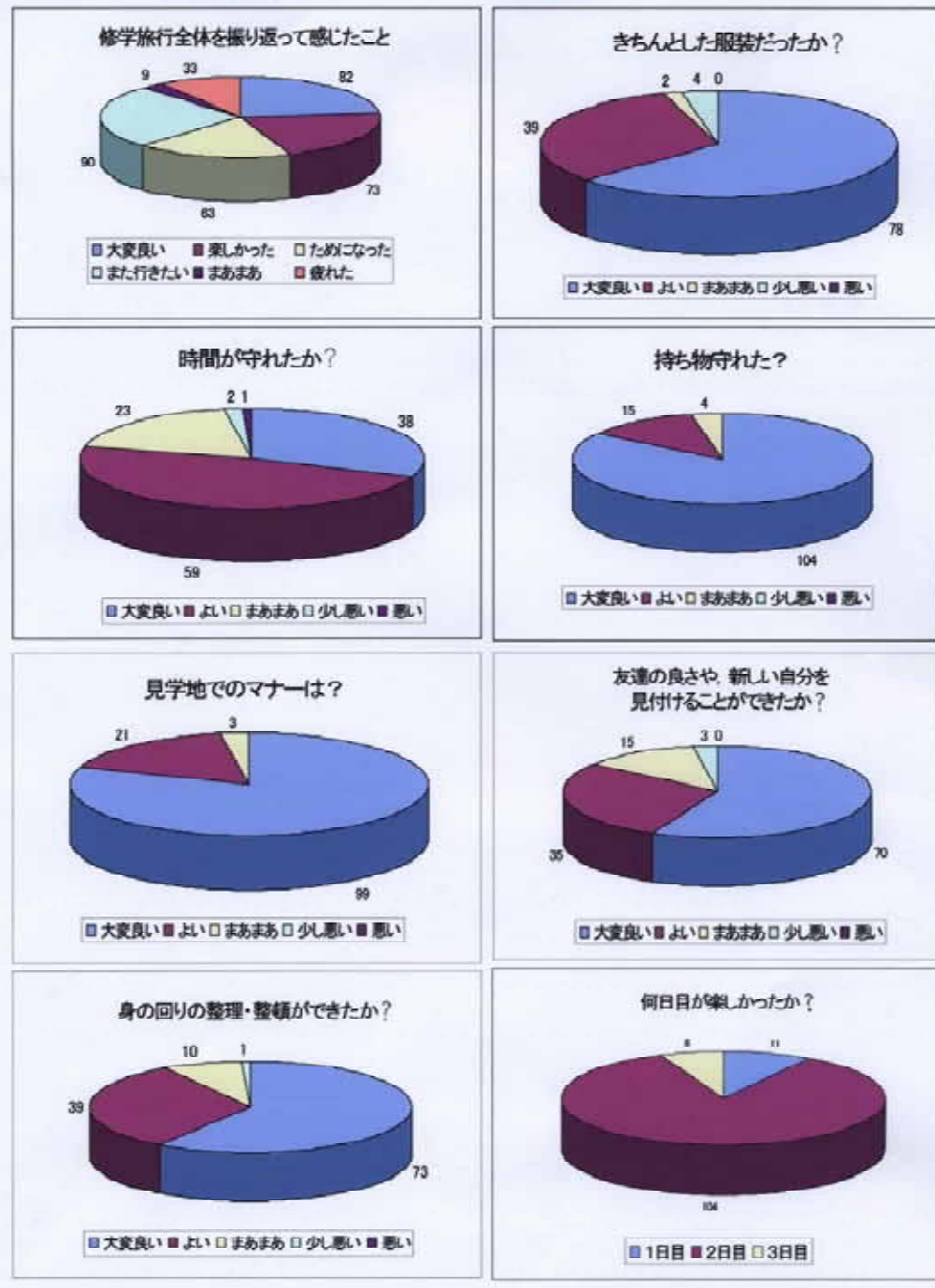


(4) 旅行後のまとめ

ア アンケート結果から

- ・前年度の北海道に次いで中味の濃い修学旅行だったが、それぞれが、良かったと感じるものだったようである。
- ・服装・決まり・マナーなどもきちんとしており、それができたこと、そしてそれをいろいろな方に評価してもらえたことが、生徒たちにも自信や誇りにつながった。
- ・「立志の1年」から続く「自分発見の旅」というサブテーマについても、十分意識が高まり、「友達のよさや、新しい自分を見つけること」「自分の生き方について考えること」「周囲の人への感謝の心」をもつことができた。

修学旅行生徒アンケート結果



イ 生徒たちの発表 < 資料 >
事後の活動として、学んだこと、体験したことをいろいろな形でまとめた。

- ・ 旅行後、お世話になった方々、体験先の方々へのお礼状を全員が書いた
- ・ 旅行についての感動を伝える俳句づくりと掲示
- ・ 作文や修学旅行新聞作り < 資料 >
- ・ 国語科によるパンフレット作り
- ・ 班別活動のまとめと発表会（ 学級発表会、学年発表会、保護者会での発表会 ）
いろいろな方法 ・ 模造紙 < 資料 >
・ 紙芝居
・ パワーポイントでプレゼンテーション
・ 実演、実物提示

担任による学級通信の発行 < 資料 >



< 資料 学年発表会 >



<修学旅行を終えて…みんなの俳句集!!>

★ ホーホケキョ ウグイス鳴くよ
★ 夏返し 古都の空気が もう
★ 万緑と まばゆい光の 金閣寺
★ 梅の下 たたずむ年にな り
★ 朝の産婦 小鳥鳴り 心引き
★ 深緑に 湖上つ林茶は 寂しい
★ いろいろな 風を感じた 金閣
★ 京都に広がる 古都の風 内山
★ 延暦寺 神統の力也 万緑で
★ 古都の風 金閣寺をより 輝かせる
★ 重層が 清水寺を かざら夏
★ 深緑が 古きと語る 金閣寺
★ 涼しげな 暑物事で 町歩く
★ 深緑の 中にたたずむ 金閣寺
★ 初夏になり 光りに光る 金閣寺

<修学旅行を終えて…みんなの俳句集!! No.2>

★ 感動の 古都の秋で 春感じ
★ 古都の南風 あの日香り 今もなお
★ ほのぼのと 都をつつむ 春の風
★ 驚きの ハフの味 チョコバナナ
★ 万緑に 映えゆる黄金 金閣寺
★ 新緑に 映える春の 十三年
★ 春風よ ふれりと春に たたず
★ 金色に 輝くあの初夏 金閣
★ 美しく 光り輝く 金閣寺
★ 輝くのが 光しくなっ て
★ 初夏の空 雲のほろ 心
★ 金閣寺 地の上にも 金閣寺
★ 嵐には 光り輝く 金閣寺
★ 比叡山 心を深め 春の目を
★ 嵐さんが おじぎをしたよ

We Can Do It



< 総合 ～ 修学旅行グループ別発表終了!! ～ >

先日、7/1(火)学活の時間を利用して、修学旅行のグループ別発表を開催しました。発表では各班毎に、修学旅行で行ってきた体験活動や、班別活動の様子をみんなにわかりやすくまとめて発表したり、体験活動で作成した実物をもってきて提示したり、パソコンを使ってプレゼンテーションを行ったりと、趣向を凝らした素晴らしい発表をすることができていました。大変レベルの高い発表会で甲乙つけがたい内容ばかり・・・担任にも発表に対する皆さんの熱意や努力が伝わってきて、本当に感動してしまいました。また、7/4(金)には、学級代表として選出された4つの班が学年の発表会で堂々と発表することができていました。発表をする側はもちろんのこと、その発表を聞く皆さんの態度も大変素晴らしいと感じておりました。





国産車はめどろろ上げてきたはま川沿道。ちょっと車
停いだけれど、これからの旅に気合いが入っていました。



修業？修行？修学！

○ 經濟 (經濟學) 學、經濟學、
○ 經濟 (經濟學) 學、經濟學、
○ 經濟 (經濟學) 學、經濟學、
○ 經濟 (經濟學) 學、經濟學、



内華中學校
五樓之維多利亞廳
第三層
五月二十日(六)
時間：暫定下午

稀少な体験
 日常の生活の中で味わうことができない体験は、人生の宝である。それは、自然の美しさ、人との出会い、そして自分自身の成長である。この本は、そんな貴重な体験を多くの人に届けるために書かれた。読者は、この本を通じて、新しい世界を発見し、自分自身を成長させることができる。



東京（京阪）
577年に創建。
1644年に開港。
高さ57m（日本一）



製造年 (平成)
730 年製造
1426 年製造
高さ 50.8m (日本一)



福寺



内學中學校
3年2組學級進修
第33卷
8月29日(木)
監修：野澤道介

[illegible]

修学旅行から中間テストへ
そして、週休・高校見学へ

「これは、私に必要のないものだから、あなたにあげよう。でも、あなたに必要のないものは、私にあげよう。」と、二人は互いに贈り物をし合った。

「(1544) あん

今日公開の回【第2回】：1978年「北野武映画祭」の第2回「北野武映画祭」に、1978年に世界デビューした

・成果と課題

修学旅行では船中泊を伴う宿泊学習での経験を生かし、修学旅行実行委員会を中心に決まりや約束事を決めたので、伸び伸びした中にも自重した行動が見られた。延暦寺での演舞奉納をはじめ、坐禅や法話、食事作法などの研修修行は実行委員会で決めたねらい「新しい自分発見」につながるものとなった。

さらに、班別体験活動でも自分たちで考え行動することで、活動の活発化を図ることができた。旅行をとおりて学級における人間関係が深まり、歴史や文化についての知識を得たこともよい勉強になった。

1年の前期の学年委員は、3つの小学校からの既成のリーダーたちだったが、学年目標を各クラスの目標を表す漢字1文字にこだわって、「真志信友」を1週間かけて作り上げた。まさに、「学年ひとつ」がこの時、産声をあげたのかも知れない。

2年生では結束力を高め、個が生きるための手立ての1つの方法としてYOSAKOIソーランを中心にいろいろな活動を行ってきた。他にリーダー育成の手立てとしてとして、学年として学級委員と部活動の部長をできるだけ重複させないことで、個が活躍できる場面を設定してきた。

3年間を見通した学年作りは、常にどんな学級作りをするかにかかっている。逆にいえば中学校の場合、学級担任の個性を尊重しながら、学年作りをしていくものだと言えると思う。

YOSAKOIソーランを通して、この3年間で生徒たちが、職員がまとまっていった。学級団結、学年団結につながっていったのである。3年間継続して上がってきた職員は私と2人の担任だけであるが、それぞれの学年でかわってくださった学年職員のみなさんの意思の統一がはかれ、行動力として表れたことは本当に感謝している。

YOSAKOIソーランを通して、地域との関わりをはじめ、生徒たちの世界も広がりを見せた。

昨年度は、2年生（現3年生）が体育祭でYOSAKOIソーランの演舞を披露し地域の方にも好評であった。本年度は、3年生が、ぜひ後輩にも感動を受け継いで欲しいとの願いから本校の1、2年生にYOSAKOIソーランの指導をし、体育祭での全校演舞が実現した。

結束力を高める「学年ひとつ」の精神が「学校ひとつ」をめざし学年として貢献できたのではないと思う。

また、その評価の一つが、各団体からの演舞依頼ではないかと考えている。これから進路・受験等で忙しい時期ではあるが、さらに地域とのつながりを大切にしていきたいと考えている。

さらに、この生徒たちが卒業後、地域に貢献できる人間としての成長も期待したい。

地域との関わりを通して

○ もみじ館での演舞

平成19年8月、地域の老人福祉施設「もみじ館」から、夏祭りへの演舞依頼があった。有志生徒13人により、演舞に参加した。少人数であったが、生徒たちも精一杯踊り、施設の方にも喜んでいただけたことで自分たちの感動体験をまた伝えることが実感できた。

○ 県陶芸美術館での演舞

平成19年12月、立志関連行事として、笠間市へ校外学習を行い、生徒全員が陶器の記念品作りをした。その後、県陶芸美術館の見学を行い、美術館の玄関前の広場で、南中ソーランとYOSAKOIソーランの演舞を披露した。見学に訪れていた方たちのあたたかい拍手をいただいた。

○ ケアレジデンス水戸での演舞

平成20年8月、もみじ館の関連グループ施設「ケアレジデンス水戸」から、前年度の評判を聞いて演舞の依頼があった。有志生徒14人により参加した。

○ Vリーグでの演舞

平成20年2月、Vリーグひたちなか大会の試合前の演舞依頼があり、学年全員で参加した。立志式の1週間前であったが、自分たちの学年の紹介や活動を観客の前で堂々と発表し、気合いの入った演舞を披露することができた。Vリーグのチームの応援団の方も一緒に客席から踊ってくださったりしてあたたかい声援もいただいた。

< 演舞の前の口上 >

学校代表

会場みなさま、こんにちは！

私たちは、茨城県を中心ある水戸市から来ました、水戸市立内原中学校です。本日は、V・プレミアリーグのイベントに参加させていただきありがとうございます。

私たち2年生125名は、昨年、札幌市開催の「YOSAKOIソーラン」に参加させていただき、大きな感動を体験してきました。今度は、この感動をたくさんの人たちに伝えたくて学年全員「内中魂」を胸に頑張っています。

主な活動を紹介すると、体育祭などの学校行事はもちろん、笠間市にあります「陶芸美術館」や地域の老人福祉センターの夏祭りイベントに招待されて踊りました。今後は、立志式や修学旅行で延暦寺に行き、「根本中堂の庭園」で踊ることなどが決定しています。インフルエンザも流行してしまい、全体練習も数回しかできませんでしたが、見ているみなさんが元気になるように頑張りたいと思います。

また、踊る前に歌う曲「希望の花」は、昨年の11月頃から、学年内で詩を募集し、応募があったものを組み合わせ、実行委員が2か月間もかけて作曲したものです。はじめて作詞・作曲したオリジナル学年歌です。一生の応援歌になるように作りました。合わせてお聴きください。

今日は、V・プレミアリーグにということで、踊る隊形もVの文字を入れてVリーグバージョンで踊ります。では！わたしたちの演舞をご覧ください。



○ 小学校・養護学校での演舞

平成20年11月15日、生徒たちの出身小学校の1つである内原小学校と交流のある内原養護学校から演舞の依頼があり、それぞれ40名ほどで参加する予定である。